

With/Post COVID-19 のまちの姿を考える

世界が同時体験している強大な社会実験

A 現状認識と展望

- 視点① 背景にはある地球規模の環境問題と
経済システム(≒マネーゲーム資本主義)の問題
- 視点② 環境と人間社会が共生するための都市の成長管理と都市構造
- 視点③ 一局集中 → 低密度居住社会へ → 多極集中 → 分散型システムへ
- 視点④ 市街地の密度と社会的格差、外出せざるを得ない多様な状況
- 視点⑤ 市街地環境の改善とニューノーマル社会とライフスタイル・まちの姿

With/Post COVID-19 のまちの姿を考える

世界が同時体験している壮大な社会実験

B まちの回復と再計画(リ・プランニング)からの視点

視点① 世界共通の課題:SDGsとレジリエンシー

レジリエンス(回復力)の高い都市:

いかなる (a)進行性のストレス (人口減少/高齢化、コミュニティ崩壊、失業、インフラ老朽。.)や
(b)突発的ショック(地震、水害、病気発生。.)があっても、

都市の個人・コミュニティ・地域社会・事業者・システムが生き残り、適応し、成長する能力。

釧路のまちづくり計画(都市計画マスタープランや立地適正化計画)を、このような枠組みで再整理

⇒住民に必要なかつ重要な場(ツボ)と その内容 & 整備の優先度が明確化

視点② COVID-19パンデミックを経て「Postコロナ社会/レジリエンスの高い都市・釧路」への戦略・戦術・戦法 その拠点は？

視点③ 都市計画マスタープランと「統合的空間計画」:釧路市の都市空間や物的環境に関わる基本計画を「統合化」(拠点:「ツボ」)

視点④ 持続可能な都市空間構造と都市形態 (増田レポートに振り回されず、本来の目的を忘れずにコンパクト・プラス・ネットワーク)

視点⑤ 大箱が集積する20世紀的中心市街地像を緑豊かな人間環境像へ (賑わい(=使用禁止)主義から健康主義へ)

視点⑥ 地区および都市の持続性の評価と発信 (a:LEED(世界基準)、b:自動車依存から公共交通指向(POD)、
c:テレワーク&分散型ネットワーク、d:eco-district etc.)

幸せってなんだっけ？

地元の良さを見つめなおす！

まちの改善と回復

新しい生活様式・ライフスタイルとまちの姿

中長期的（新しい都市を支える“**まちの社会的な資本**”は？）

- － 人生100年時代の人間と社会に必要な水・食糧・住まい・医療・健康・教育・産業クラスター
- － エネルギー、移動(交通/TOD)
- － ICT, IOT, AI ⇒分散型ネットワーク
- － 都市環境(グリーン都市)・新しい緑/農/住・人間的生活圈・グリーンインフラ
(新しい「生活様式」を支える新ビジネスを興すライフ・イノベーション地区)

短中期的

- － 公共空間の人的活用(例:街路や公園や小河川の姿)と再配分
- － 公共的な移動の担い手(TOD&モビリティデザイン)
- － 身近な生活圈とコミュニティデザイン(新しい「生活様式」を支える新ビジネスを興すライフ・イノベーション地区)

何をリセットするか？

COVID-19 の影響で、世界の社会経済システムが大きく揺らぎ、ポスト資本主義へ

ダボス会議（世界経済フォーラム/クラウス・シュワブ会長）2021のテーマは
「**グレート・リセット**」

いま

世界が直視しているリセットは、マネーゲーム的な市場主義（欲望的資本主義）経済への依存からの脱却

経済過程には、三つの類型（経済学者のカール・ポランニー）

- (1) 市場における交換
- (2) 政府による再分配
- (3) **相互扶助の互酬**

持続可能でかつレジリエンス（回復力）の高い都市へと再構築するために、
100年時代の食糧や医療、健康、教育、産業クラスターといった社会サービス（社会共通資本）を充実させ、
“**人々の幸福**”を中心とした地域経済への立て直しが重要

リーマン・ショック後に、社会学者リチャード・フロリダが書いた本のタイトルも「**グレート・リセット**」

【R.フロリダ：“創造力に富んだ人材の移動・活動を促す都市（『**創造都市**』）”の魅力が、新しい経済を生み出す】

コロナの先の異なる世界

「withコロナ」、「afterコロナ」、
そして「コロナの先の世界」を模索する動きが広がっています。

“コロナ・パンデミック”という
世界のすべての国ですべての人が同時に体験している強大な社会実験のトンネルの向こうには、
これまでの延長線上の世界ではなく、
異なる世界が広がっているだろうと感じる人が増えています。

地元の良さを見つめなおすいい機会！

その異なる世界への動きは釧路でも動きだしつつあると思います。

大きな影響を与えるのは、
「このコロナ状況下で人々がどんなことを感じ、試し、考え、発見しているか」、
「人々の生活様式、価値観そして行動がどのように変容しつつあるか」、
「これからの釧路の市民にとって本当に重要な場は？ 必要な場は？」は何か！が分かってきたのでは？

今回の打合せは、
「withコロナ」「postコロナ」「コロナの先の世界」を示唆する“発見”について、
参加者が共有し、まちの回復と再計画を考えるための意見交換の場だと思っています。